会　　議　　録

会　議　の　名　称		令和７年度　第２回小川町地域公共交通活性化協議会
開　催　日　時		令和７年８月８日（金） 開会時刻　午前１０時　　閉会時刻　午前１１時５０分
開　催　場　所		小川町民会館（リリックおがわ）会議室１・２
出　席　者	役職名	氏名
	会長	尾崎　　晴男
	副会長	小暮　　亮治
	委員	高木 純子（代理 柴山 貴洋）
	委員	古川　　雄哉
	委員	石塚 弘行（代理 立花 信明）
	委員	中村　　雅彦
	委員	大山　　博
	委員	小熊　　和久
	委員	山岸　　実
	委員	田端　　健二
	委員	近藤　　隆俊
	委員	五十嵐 康博
	委員	吉田　　和也
	委員	内田　　弘
	委員	島田 かおり
	委員	土田　　芳夫
会　議　の　議　題		（１）令和６年度小川町デマンドタクシー運行形態変更後の利用状況について （２）小川町地域公共交通計画の改訂に向けた検討スケジュールおよびアンケート調査の実施について （３）路線バス減便に伴うときがわ町営バスの運行開始について
会議の公開又は非公開の別		公開
会議の非公開の理由		－
傍　聴　人　の　数		４人
発　言　の　内　容		別紙「発言の要旨」のとおり
会　議　資　料		別紙のとおり
事　務　局		都市政策課 都市政策担当
議事の確定	確定年月日	令和７年８月８日
	記名押印	役職名 会長　　尾崎　晴男　㊞

発言者	発言の要旨
	（１）令和６年度小川町デマンドタクシー運行形態変更後の利用状況について
	分科会報告
小暮委員	7 月 23 日に開催した第 1 回分科会の報告を分科会長として行う。出席委員は、(小暮委員)、石川委員、田端委員、五十嵐委員、吉田委員、運行事業者の田端委員からは運行形態変更後の利用状況についての報告を聞いた。 ・利用者の多くは、通院とスーパーに行く目的で利用しているが、料金値上げの影響もあり、買い物については、行きは鉄道やバスを利用し、荷物がある帰りのみデマンドタクシーを利用する等、工夫した乗り方をしている。 ・一人暮らし高齢者、障がい者、年金受給者、生活保護受給者は特に料金値上げの負担が大きい。 ・遠方からの利用は減少し、料金改定後に全く利用しなくなった方もいる。 ・利用機会の減少については、食料品等の物価高騰もあり、デマンドタクシーの値上がりだけが要因とは感じていない。 ・東小川地区で路線バスに関するアンケートを行い、路線バスの利用状況を聞いた。 ・地域の会議の場で、年金受給者にとってはデマンドタクシーの値上げがかなりの負担になっている旨の声が多かった。今回の検討結果を活かして欲しい。 ・地域住民へのデマンドタクシーの利用方法について、案内や周知を行っているのか疑問。 ・今後も継続してデマンドタクシーを運行するため、利用者にアンケート調査を実施したらどうか。遠方からの利用者の目的が、明確に把握できるのではないか。 事務局より回答。 ・利用機会が減少した方、全く利用しなくなった方への理由を伺う必要があると考えている。 ・遠方利用する方へのアンケート調査は、調査方法や設問を十分に検討し協議会で報告できるよう、準備を進めていきたい。 この質疑応答について分科会として同意をした。
五十嵐委員	アンケート調査票の問１の利用方法の変化に関する設問の選択肢として、生活上の変化や健康上の理由も選択肢に追加しても宜しいかと思う。例えば、仕事を辞めたり、移動販売を利用して買い物へ行く機会が無くなった等により、外出する理由がなくなった可能性も考えられる。

発言者	発言の要旨
事務局	検討して、修正案を考えたい。
中村委員	デマンドタクシーは、持続可能な運行のために料金改定をしたと理解している。町の負担額について、削減目標はあったのか。デマンドタクシーの本来の意義は、縁辺部の居住者の移動を支えることだと思うが、縁辺部の利用者が減少しているのであれば改善するような施策を講じないといけない。1,500 円に値上げしたことで利用者が減少してしまったということは、町民感情で 1,500 円だと高いということである。500 円だと利用者が多いとのことで、中間の 800 円ぐらいなら少し抵抗がありながらも利用者の回復が見込めるのかと感じる。縁辺部の方を救えるような対策をお願いしたい。
事務局	予算の目標は具体的にはなく、運行当初の予算は目安としていた。デマンドタクシー運行の目的は、鉄道やバスが徒歩圏にない公共交通空白地域に居住する方々の移動手段を確保するためで、公共交通の位置付けで導入した。高齢者の外出機会増加の目的も兼ねている。ご指摘のとおり、公共交通空白地域は中心部から離れた地域にあり、そのエリアの方々の利用が減少してしまっている現状である。今回アンケート調査によって、利用者の声を聴き、対応策の検討に役立てていきたい。
古川委員	提案になるが、アンケートの回収率を上げるため、表紙でアンケートの対象の地域を限定している事が認識できるような、何かしらのアピールがあった方がよいのではないか。問５の今後の取組みを回答していただく設問が自由記述になっているが、案が思い浮かばずに回答を書けない方も多いと思う。町の方で例を並べた方が、回答しやすいのではと思う。
事務局	回収率は高い方が好ましいため、表紙の示し方は検討したい。問５については当初選択式にしていたが、設問設定が難しく断念した経緯がある。ご意見を踏まえ、記載例を示す形を視野に入れて修正したい。
尾崎会長	回答を選択式にすると誘導にも繋がりかねないため、要検討いただきたい。
田端委員	デマンドタクシーの運行時間は午前８時半～午後５時だが、受付時間は午前８時～午後４時半である。運行時間と受付時間が異なる事を把握されていない方が多いため、アンケートでも周知を図っていただきたい。
事務局	資料３の小川町の公共交通に関するアンケート調査で示したい。
尾崎会長	今後の方向性として、デマンドタクシー利用状況の推移を調査すること。更に、縁辺

発言者	発言の要旨
	部に居住している方には、追加で資料６のアンケート調査を実施すること、これらを協議会として承認するかお諮りしたい。
	- 全委員承認 -
	（２）小川町地域公共交通計画の改定に向けた検討スケジュールおよびアンケート調査の実施について
	分科会報告
小暮委員	小川町地域公共交通計画の改定に向けた検討スケジュールおよびアンケート調査についての第１回分科会の報告を行う。 ・デマンドタクシー利用者の多くが高齢者のため、無作為抽出するとアンケート回収率が低くなる懸念がある。 ・アンケート回収率を上げるため、民生委員や議長が一人一人を回って回収する形式はどうか。 事務局より回答。 ・アンケートの回収については、準備期間が短いこともあり、当初の予定どおり郵送と Web による回答としたい。対象人数を 1,500 人としたのは、回収率をある程度見込んでの事。 ・アンケートの設問についてご指摘をいただいた箇所は、修正案を協議会で示す。 この質疑応答について分科会として同意をした。
柴山委員 （代理）	改訂に向けて不明点があった場合は埼玉運輸支局にご連絡いただければ、最終的に関東運輸局に繋ぐこともできる。気軽に問い合わせいただき、改定に向けて伴走していきたい。 資料３のアンケート調査票について、地域公共交通計画の計画概要も載っていた方が回答のイメージがしやすいと感じた。
事務局	計画改訂に向けたご支援について、引続きお願いしたい。計画概要については、アンケート調査票に町のホームページにアクセスできる QR コードを載せているが、高齢者も対象としていることから、計画の概要版を作成したい。

発言者	発言の要旨
古川委員	アンケート調査票のＰ１、自転車・バイクの運転に関する設問で、回答手法をあてはまるもの１つに○としているが、例えば①家族に運転を止められたことがある、さらに、②運転に不安を感じている、と複数回答する可能性も十分考えられる。このままで宜しいのか、あるいは最も当てはまるものを１つ選択するのか、検討していただきたい。問２のデマンドタクシーの利用状況に関する設問の回答の選択肢は、デマンドタクシーを知らないという選択肢も必要だと思う。問５の今後の公共交通の確保に関する設問の回答の選択肢②は、現状の文章表現だと現状の町の負担額で今後も同水準の公共交通の維持が可能と捉えられかねない。今後は、現状の公共交通の水準を維持するにも財政負担が増えるはずである。
事務局	修正案を検討したい。
五十嵐委員	問４のデマンドタクシー改定後の利用状況の選択肢が不足していると思う。例えば、その他の公共交通を利用するようになった、生活環境の変化、料金改定に不満を抱いている等の選択肢も考えられる。
事務局	修正案を検討したい。
中村委員	問３－３のデマンドタクシー運賃の満足度に関する設問で、３段階の運賃を示しているが、例えばタクシーだと５００円で走行距離はこれぐらい等例示しないと、良し悪しの判断が難しいと思う。
事務局	デマンドタクシーを普段利用していない方も回答しやすいよう、ご意見を踏まえて検討したい。
吉田委員	資料２の検討スケジュールで、令和８年の４月以降の予定を示してほしい。計画を取りまとめてどうするのか、追加いただきたい。
事務局	１年間の取りまとめをする旨を示した資料となっており、来年度も本年度同様に検証を進め、適宜、委員の皆さまへのご報告や協議会での議論も行う予定である。ご指摘の通り、４月以降についてもスケジュールを整理して示したい。
尾崎会長	いただいたご意見・アドバイスを反映して、計画の改定とアンケート調査に向けた準備を進めていくことを協議会として承認するかお諮りしたい。
	- 全委員承認 -

発言者	発言の要旨
	（３）路線バス減便に伴うときがわ町営バスの運行開始について
五十嵐委員	運行管理は委託になると理解したが、車両はイーグルバスの車庫に駐車する形か。
ときがわ町	車両は町で所有している。車庫は、ときがわ町内のイーグルバスの元ときがわ営業所で管理し、管理業務もイーグルバスグループのイメディカ株式会社が行う。
五十嵐委員	点呼は必要か。
ときがわ町	必要である。点呼等の運行管理はイーグルバス株式会社に委託している。イーグルバス小川営業所にて、オンラインの点呼を行う予定である。
尾崎会長	いわゆる公共ライドシェアの形である。ときがわ町営バスの運行にあたって、小川町への乗入れがあることからご説明いただいた。小川町でも、バス路線の維持が困難な状況であることは昨年もバス事業者からご報告いただいている。バス事業者の委員より個別のバス事業の現状についてお話をお聞かせ願いたい。
山岸委員	昨年のご報告と変わらず、弊社でバス乗務員の採用活動は進めているものの、確保が難しい状況である。このような状況の中で、ただ減便するのではなく、新たな交通形態の導入に至った。埼玉県では初だと思うが、ときがわ町への事業者協力という形で町営バスの運行に携わらせていただく。先程のお話のとおり、弊社の小川営業所が、点呼業務や異常時における情報提供、ダイヤ編成等の運行管理を担う。引続きご協力をお願いしたい。
小熊委員	昨今のバスによる大きな事故や２０２４年問題によって、運転手の労働時間の短縮や休憩時間が延長された。それにより、今まで１人で担えた業務を２人体制にせざるを得なくなり、会社としても路線の廃止や減便が必要となった。そもそも車の免許を取得する方が減っている中で、大型二種の免許を取得する方はまずいないため、バス運転手を採用するとなると、普通免許を取得している方を養成するのがほとんどである。小川線については、日中の乗客はほぼおらず、町の補助によって運行が成り立っている状況にある。運転手募集は先月からラジオでCMを流しており、会社としても運転手が辞めないよう、コロナで３年間赤字が続いても賃上げを続けたが、いつまで続けられるのか、困難を極めている。町民の方々も問題意識はあると思うが、少しでもバスの利用機会を増やしていただき、１日でも長く事業を存続したい。
大山委員	弊社はみどりが丘地区、東小川地区でバスの運行をしている。利用者は大きく減少している中でも何とか事業を維持している状況である。町の施策によって成り立ってい

発言者	発言の要旨
	る部分もあるが、限界に近付いている部分もあり、小川町に限った話ではなく、やむを得ず減便する事もある。埼玉県の事業で数年前に日赤経由に路線を見直したが、見直し当初のころよりは利用者が減少している状況にあり、これらも踏まえて地域公共交通計画の見直しを行って頂ければと思う。
尾崎会長	バス事業者が難しい状況に置かれていることがよく理解できた。ときがわ町の１０月からの町営バス運行について、承認するかお諮りしたい。
	- 全委員承認 -
事務局	以上をもちまして、本日の協議会を終了とさせていただく。長時間にわたりご協力いただき、誠にありがとうございました。本日はこれにて散会とさせていただく。